

「なにわ路情」がめざすもの

野宿生活者の生活や声を取りあげ、ともに考える新聞です。  
脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりができています。  
今までのことそしてこれからのこと、いっしょに考えていきましょう。

<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/>

なにわ 路情

野宿考ジャーナル  
6号(隔月刊)

今治成人（いまじなりひと）さんとお会したのは1月の（さむい夜でして）。野宿生活者（のしょくせいかた）が、<sup>①</sup>じゆくせい（じゃくせい）かつしや（かつしや）をさせえようとしていたグループより電話があり路上にかけつけました。1週間ほど前に、ねぐらにしていたタンポールに放火されたのことと右足の重いやけどは消毒（じゆうどく）もされず真つ赤にはなれあがつていました。よまわりをしていたグループがみつけてをしていたグループがみつけては治療（ちりょう）をすすめましたが、今治さんはこれを頑（がん）たが、このことわり続けていました。このまま見まもりを続けるだけでよいのかどうか、見えわめができずに困っていたのでした。今治さんの右足をみて、これは命にかかわると本人とグループに伝えました。それから1時間ほど、今治さんへの説得（せったく）がつつけられました。病院をいやがる理由（りゆう）を聞きとり、問題をひとつひとつ解決（かいげつ）していくみなさんの熱意（ねつい）にうながされて通院（つういん）に同意（どうい）されました。その後、やけどは徐々になおっていききました。



医療（いりょう）とどうつきあうか

医療（いりょう）に対する不信（ふしん）や恐怖（きょうふ）を口にする方に野宿の現場で出会ったことがあってがくせんとすることがよくあります。しかしこれはなにも皆さんだけにきざったことではありません。だれにとっても病院へいくのは楽しいことではありません。みんな必要にせまられて医療を利用しているのだと思います（病院で「いやな思い」をすることが、野宿生活者の方がずっと多いことが問題なのかもしれない）

今治さんを苦しめてきたのも医療ですし、自立にいたるきづかけを作ったのも医療でした。今治さんの場合がうまくいったのは、病院の外で支えてくれる人たちがいたことだったと思います。ひとりだけで病院と向き

最後になりましたが、実は今  
治成人さんは、かくうの（im  
aginary イマジナリー）  
人物です。正確に言うと、医  
師として野宿の現場でお会いし  
た皆さんの部分部分をつなぎ合  
わせてつくりあげた人物です。  
というのも医師には患者（かん  
じや）さんから聞いたことを外  
にもらしてはならないルールが  
あるからです。ですから今治さ  
んは部分としては、全て実在  
（じつざい）の人物です。  
今治さんが自立に向けて歩み  
を進める上で、大切だったこと  
は何だったのでしょうか？  
今治さんをみつけたでして说得  
したグループ、グループを側面  
より助けた医師、施設からの検  
査につなげた病院の医師や相談  
員、生活保護に向けて動いた支  
援団体、役所のひとたち……な  
どの一連の「つながり」であ  
ると思います。野宿問題の解  
決（かいけつ）とは、こうい  
った様々な立場のひとたちの「  
つながり」をどのようにつくりあ  
げていけるかにかかっているよ  
うに思えるのです。

医療をきく  
野宿をしていた今治さ  
あ  
ヤケドを放置して

医療従事者医師 S・Y  
病院はこわい？

きらめ」と「きょうぶ」が作られていったようです。右足がなおるのを待つて、今治さんの診察（ひんさつ）を路上で行いました。聞きとつた内容をもとめて本人に手わたした病状をへたってもらいました。今度院へいってもらいます。今度は、検査（けんさ）の必要があるということになり、病院の相談員（そうだんいん）さんのす

つながりの輪を広げて  
あうよりも 支えてくれる人た  
ちと一緒にのりこえていけば、  
適切（てきせつ）な治療（りょうぎょう）（せうりょう）  
（よう）が受けられるかもしれない  
せん。皆さんを支えてくれそう  
なグループと出会ったときに、  
思い切（き）って体の相談（さうだん）をしてみて  
はどうでしょうか？

紙面

1 医療の現場から - 野宿をしていた今治さんの場合から考える	3 いつもおじゃましています！
2 借金問題は解決できます	4 こちら路上医療相談室
2 自分たちで祭りを作った！	4 カマヤんの野塾発売中「カマヤんと八起さん」 ありむら潜
3 福岡訪問記 北九州NPOの自立支援(下)	4 編集後記

発行元  
NPO元気百倍ネット  
なにわ路情編集局

〒530-8090 大阪中央郵便局留  
NPO元氣百倍ネット  
「なにわ路情編集局」係  
tel 06-4397-9305  
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp  
<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo>

血圧の高い人がとても多いので、血圧を下げるための重要な治療法の一つは生活を整えることにある、ということとはよく知っておられると思います。今日は、その四つのポイントをおさらいしましょう。血圧をコントロールして脳卒中や脳血管痙攣症、心筋梗塞をふせぎたいのです。

1 今の食事から塩分を半分にするつもりでくらしましょう。塩からいもの（ナトリウム）が体の中に水気をふやして血管をせまくするから血圧が上がるのです。

ふりかけ、塩こんぶ、つくだに、イカの塩辛、つめぼし、漬け物などの使い方を今までの半分にしましょう。インスタントラーメンは小袋の中の調味料を全部カットに入れないで少しのこします。そして汁はできるだけ飲みこみます。

この食べかただけで塩気をとるのをかなり減らせます。

しょうゆはひじょうに塩分が多いので、おかずの下味がついていたときはかけない。かけたときはしずく一滴最小にします。ゆで野菜にかけるのはしょうゆよりもぼん酢系のほうがずつと塩気をカットできます。

塩さはなどの塩干魚、ひらきの魚、練り製品のちくわ、かまぼこ類、ハム、ソーセージもたたくさんの塩がしこまれています。

2 カリウムを今までの二倍に増やす目標です。どんな野菜でもいいので毎日野菜ましょう。わかめやひじきなどの海藻類、くだもの、イモ類などに含まれているカリウムは血圧を下げるはたらきをします。

3 節酒！です。アルコール

酒一合が目標です。


4 ニニコパスの早歩き一日三〇分の運動です。体を動かすとき普段使っていない血管がみな開いて血圧を下げます。運動不足がちな人は毎日歩きましょう。

日ごろ、健康についてお話し合いをする場面では私はいつもおどろくことがあります。こんな生活しつたらでけへん」と言われる人もありますが、それよりも何とかがしてやってみようという気持ちを示される人が多いいです。最近うれしい話をきくことが増えてきました。『酒へらして野菜に金をまわすようにしたよ』『毎日好きな塩辛を食べていたけどやめたら上の血圧も下の血圧も二〇ミリ

ずつ下がってきたでー、タバコやめたら血圧が下がってきたよ。


わたしは皆さんが食べることや生活の制約や制限がどれほどきびしいかをよく知っていますから、このような取り組みをきかせていただくことはほんとうに感動的です。わたしたちの人生で、自分が自分の世話を辛抱強くしつづけること、自分が自分をほんとこの意味でまもる、ということとは他のもうひとつのことにもまして価値あることなのです。

⑦ あきらむる者  
かみゆんといふ人  
やあき  
義得して



● 漫問 野牛 あ R1


野宿生活には哀しみやせつなさもあれば、笑いだってあります。この社会を再建していくためのヒントだってあります。この漫画本は、天涯孤独の浪花の自由人・ガマやんや、その新しいトモダチ、ナナコロビ八起さの物語をとおして、一般市民がホームレス問題をよりよく理解するのに役立つことを願いつつ、出版されました。すでに、いくつかの大学や中学校で参考文献として活用されています。



お求めは全国の大きな書店で。多くは社会問題等のコーナーに置いてありますが、見つけないのでお店で聞くのがてつと早いです。置いてなければ、お店でご注文ください。


または、釜ヶ崎のまち再生フォーラムまでご連絡を。

FAX 06 6363 2609  
TEL 06 6344 0115  
Eメール  
kama-yan@sun-net.or.jp



意見とともに、野宿生活者問題に関心を持つ全国の方々から、当初の予想を超えた多くのお問い合わせをいただき、スタッフ一同、嬉しさのみならず大きな責任も感じております。

ようやく一年ではなく「まだ一年」という気持ちで、さらなる活動の輪を広げていく努力をして参ります。今後とも変わらぬ温かいご協力を宜しくお願い申し上げます。



こちら路上医療相談室

第7

大川 記代子（あいりん地区巡回保健師）

血圧は自分でコントロールできます



●全国の書店で発売中！

漫画ホームレス  
問題入門  
野宿者問題理解の  
キーワード付き  
ありむら潜  
ARIMURA Sen



かみがわ出版  
〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入  
TEL : 075(432)2868 FAX 075(432)2869  
1500円(税別)

## 編集後記





# 借金問題は

## 解決できます(連載1)

大阪弁護士会野宿者問題プロジェクトチーム  
弁護士 大橋さゆり



野宿生活者のみなさん、こんにちは。私は、大阪弁護士会の活動の一つとして、野宿生活者の自立支援のお手伝いをしている弁護士です。野宿生活者が大阪市内に急増した2000年から活動を始めました。

残念ながら日本の社会には、野宿に至った人々をただ仕事に就こうとしない怠け者とする風潮が残っています。でも、本当にそうでしょうか。私たちにそうでしうか。施設に入所した人たちの体験談も聞いたところ、決してそんなことはなく、野宿の原因は借金と失業にあると私たちは確信しています。



借金問題の根底には、とても簡単にお金を貸し付けるサラ金・マチ金の存在があります。当てにしていた給料が突然のリストラで入らなくなった、病気のけがで働けなくなったりしたとき、消費者金融の誘惑には抗しがたいものがあります。しかし借金はそこから雪だるまのようになり、返済が追いつかなくなり、失業してしまつたり、生活保護を受けることになったとしましう。

事ここにある!と考える。路上に寝ていてどうして就職活動ができるのでしょうか。住民票の置ける住所も連絡先もないのに、雇ってもらえるはずがありません。運良く自立支援センターに入り、一生懸命就職活動をし、センターを連絡先によつて就職先が決まつたとしても、あるいは一時避難所(シェルター)や生活保護施設に入つたあと、自分で部屋を借りて生活保護を受けることになったとしましう。

## 自分たちで祭を作った!

「峠の会」が大阪城公園でもちつき祭



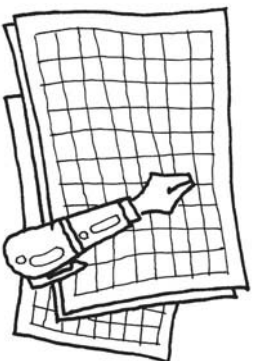
以前、当紙でもご紹介した、野宿経験をもつ仲間が集まり「峠の会」が、昨年12月21日に行われた「大阪城公園もちつき祭」で大活躍しました。

代わるがわるもちをつきながら、たこ焼きなどの出店や獅子舞などのステージも楽しみ、交流を深めました。もち之余りを出し、豚汁やきなこもちにして振舞われたほか、年越し用に各自持ち帰ってもらったほど。



## 福岡訪問記 北九州市NPOの自立支援

### 自立支援住宅退所者のあつまり「なかまの会」会長にきく(下)



前回にひきつづき、脱野宿のひとびとの自立支援をたずね、北九州市のNPO北九州ホームレス支援機構運営の自立支援住宅でのインタビューです。野宿生活者10人が同時にこの自立支援住宅に入所して半年後にいっせいに卒業します。そして卒業後は地域のアパートでひとり暮らしをはじめます。なかまの会は、こうしたひとり暮らしの人たちの集まりです。この会長である谷山さん(仮名、68才)にインタビューしました。

自立支援住宅に入ると、同じ屋根の下に住んでいながら、なかなか付き合えないのを見ました。これじゃあいいけないなあと思ひ、同期の人が入院したら、たとえ顔を知らない人でも、歩いてでも自転車借りてでも、ぼたん餅など買って見舞いにゆく、退院して支援住宅に帰ってきたら、あの時はありがたうって、うまく先輩たちとの交流ができたなと思つてます。みんな寂しいわけですよ。でも積極的に仲間をつくるという意識の気薄な人が多い。

写真(右) 北九州市の自立支援センターに予定されている建物。このNPO北九州ホームレス支援機構が運営にかかわる。



写真(左) 「なかまの会」の集会所にもあたる「みんなの家 なごみ」の玄関看板。北九州市八幡東区の自立支援住宅の屋上にある。

これは一定の会費をとつて互助会みたいなものにしたいですね。白寿になつたらドーンと9万9000円、ねらつたらこれ狙え、って笑)。自転車で来れる距離に住んでいるOBが大部分です。OBは自転車だと端から端までいってても20分、ここを中心にして15分以内にはみんな住んでいます。連絡調整員は平均、6、7名を担当し、電話はしょつちゅうにかけています。部屋にこもつている人が半数で、天気がよければ散歩、何かがないとなかなかでかけない。中には逆にいつも出かけている人もいます。女性には5名、参加しているのは3名です。とにかく人つきあひつて、行くことからはじまるんですよ。どうもうまくいかん奴もあるでしょう。でもこういうところがあるし、この面をについて話してみれば案外といい人間かもわからんというところもありです。はなつから肌合ひがいいです。あいつがいるから今度の会合は行かんとか。まあそうした意地がなくなるとおしまいで、その意地だけもつとかんと笑)。

大抵ありがととか声をかけてくれたり、礼儀正しくフレンドリーに接してくれるのにとて驚いたが、それは私の心のどこに彼らに対する差別意識があるからだろう。自分が持つていた路上生活者のイメージが間違つたものだ。自分たちが、自分の中の一番大きな変化だと思ひます。自分が今世界で一番苦労しているんじゃないかって、少しでも錯覚していた自分が、心底、あほじゃないかって思ひました。

川沿いの立派の小屋、ドアの前には、居ますと書かれた看板。礼を正してノックすると、髭をたくわえた老紳士が現れた。いいお宅ですねと言つとそんなことないよと恥じらつていらつしやう。女性の生活者が多かつたことが最も印象深かつたが、私達と同じ年代のお子さんをもちの方、彼女には生きることへの強い意志を感じられた。息子や娘と同年代の子と話

ができて嬉しい。新聞は毎日きちゃんと読んでくれている。そつた。お子さんに会えるまで頑張つてほしい。他に出会つた女性野宿者方々も、いずれの方もきれいにマニキュアを塗つており、野宿生活にあつてもおしやれを忘れない女心というものに感心した。今年の春の春色をぜひとも入手してほしいものだ。本当に生活に困窮している人もいれば、周囲の人々と共同で路上生活をしている人などそれぞれの生活方法があつた。体の調子を崩している人も見受けられたが、おせうかしているほどの声かけて、何か健康に問題が出たときに気軽に迅速に連絡できる体制を作つておくことが大切なのだなと理解した。

いい家はないか?新聞にはそういう情報をのせてほしいという方があつた。生活保護の事を聞いてきた人がいたが、よく分からず答えられなくて困つた。新聞にある連絡先に連絡したら何とかなるのかと聞かれ、なんとお答えられなかつたけれど、とりあえずわからないことがあつたら連絡してみてくださいと言つておきました。